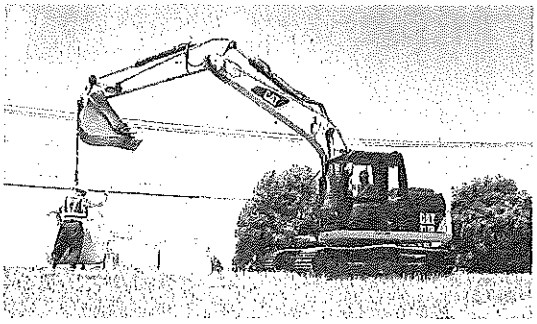
非常体制時の役割確認

合同防災訓練 札幌建管、札幌建協など

札幌建管は26日、札幌建設業協会、空知建設業協会などと合同防災訓練に励んだ。非常配備体制時の役割や災害情報の共有方法を確認した。



当別川の実動訓練で土のうを積んだ

防災協定に基づき、災害時の体制強化を目的に2011年から実施している。

札幌建協と空知建協、石狩・空知地区維持組合連絡協議会のほか、3月に連携協定を結んだ札樽地区測量設計協会が初めて参加した。

台風による大雨や土砂崩落、河川決壊・浸水などを想定。大雨・洪水・暴風・波浪警報や土砂災害警戒情報が発表されたと仮定して建管本部連絡員会議を設置し、各協会から被害状況を収集した。

情報伝達訓練で、各協会は会員企業からの報告をまとめたほか、札幌建協は現場への急行訓練を実施。札幌市の精進川に道路工業（札幌）、恵庭市の柏木川に玉川組（恵庭）、当別町の当別川には新昌建設（当別）を派遣した。当別川では氾濫に備えて、実際に土のうを積み上げ手順を確認した。

札幌建管は全ての報告を受理しまとめた後、空知総合局と石狩振興局に情報提供した。

1－6.28

北海道建設新聞

札幌建管が当別で防災訓練

本番さながら連携確認

河川氾濫想定し札幌建協会員参加

札幌建管は26日、当別町内で防災訓練を行った。札幌建設業協会（岩田圭剛会長）と新昌建設㈱（当別、伊藤雅博社長）も参加し、土のう積みの連携を確認するなど、受発注者間で声をかけ合いながら実働訓練に当たった。

札幌建管の合同防災訓練は2011年から実施しており、札幌建協の会員企業も毎年入れ替わりで参加している。

当別出張所管内の訓練では、札幌建協と新昌建設から5人が参加。江別市の篠津川が氾濫した想定のもと、災害時の連携を確認し合った

協会事務局で出動要請を取りまとめ、被害確認や土のう積みを当別川の河川敷で行った。訓練では、大型土のう3個積みによる初動作業が行われ、本番さながらの防災訓練に奔走した。

札幌建協の網田和久次長代理は「現場作業の安全を確保し、災害対応に当たるため、建管と会員企業との連携確認に努めたい」と語った。

新昌建設の久保信浩専務取締役は災害時のパニックも想定した上で、「訓練の中でしっかりと連絡体制を整えていくことが大事」と訓練の意義を強調した。

地震想定し訓練 札幌建協BCP

また、札幌建協は同日、協会単独事業でBCP（事業継続計画）訓練を実施。午前10時に震度7の地震が発生した想定で、BCPを策定している会員企業約30社が参加して社員の安否確認を行った。協会では秋にも同様の訓練を実施し、計2回の訓練結果を踏まえ検証のためのフォローアップ会議を開催する。

1－6.27

北海道通信